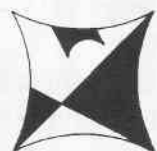
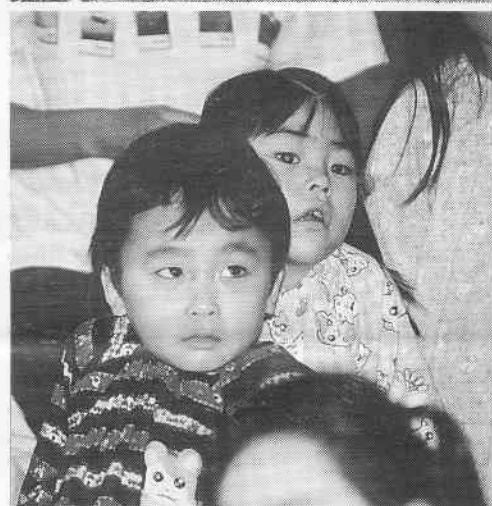




風よ 大地よ 夢よ
北からはじまる造形の未来



北海道 造形教育 連盟報

No.113 2001.12.13 発行

発行 北海道造形教育連盟

委員長 芝木 秀 昭

事務局 〒004-0032 札幌市厚別区上野幌2条4丁目5-1

札幌市立上野幌東小学校 藤 井 正 治

☎011-893-5055 FAX011-893-3537



21世紀新たな造形教育の展望に向けて 第54回全国造形教育研究大会北海道大会終了のお礼

第54回全国造形教育研究大会

実行委員長 藤井 正 治
(北海道造形教育連盟事務局長)

全国大会が盛会の内に無事終了しましたことを心からお礼申し上げます。

3つの基本構想からスタート ●●●

今大会の取り組みは、平成9年度に始まり、大会のイメージ作りから出発いたしました。

1998年2月26日に行われた第1回全国大会構想企画委員会では、基本的ねらいを以下の3点としました。

(1) 社会に訴える大会

造形教育の21世紀に果たす人類的価値と我が国の進歩に欠くことのできない造形教育の重要性を社会に認知させる大会。

(2) 組織強化

「全米美術教育協会」的な役割を果たす全国組織として全造連がスケールアップする切っ掛けとなる大会。

(3) ボトムアップで研究を支える

21世紀に向けて造形教育の方向を確信できる研究内容となるよう、全道の仲間とつくり上げる子供や教師から出発するボトムアップの大会。

この基本構想をもとに、1999年には企画書を作成し、研究の理論構築と合わせて、大会の構想を練り上げてきました。

企画書の「趣意」の中では、『21世紀を目前に、これからの造形教育は言うに及ばず、新しい日本の文化や芸術を共に考え発信する。フロンティア精神に溢れた先達の思いを再び燃え上がらせ、未来に指針を示す大会にしたい。』とその思いを掲げて取り組んできました。

大会の運営に当たっては、各局の業務を明確にしながら、具体的な動きを見通して実行委員会を立ち上げ、その運営に当たってきました。

実行委員会を組織するに当たり、連盟の会員だけでは業務を遂行することは難しく、札幌市教育研究協議会の図工・美術部会の会員の方々にもご協力願うこととなりましたが、実行委員の方々の熱意溢れる取り組みがなければ、今大会の成功はなかったであろうと思います。

理論と授業の構築を重視して ●●●

この大会では、授業が柱であることを基本に、研究局による理論と授業の構築を重視して取り組んできました。

それぞれが、忙しい毎日の中で時間を厭わない熱意ある取り組みをし、北海道としての考えを授業に具現化してい

く過程は、これからの造形教育の基盤を作り上げる上でも貴重な取り組みであり、大会の大きな成果の一つであったと思います。

分科会構成につきましても、全道の仲間が、提言や記録、助言というパートに精力的に取り組み、北海道としての発信に協力いただき、大きな成果を上げることができました。全道の会員の協力に厚く感謝申し上げます。

バラエティーに富んだ取り組みで ●●●

今大会は、新指導要領完全実施を前に、これからの図工・美術の教科としての在り方を問うというねらいがあり、その方向性を示唆していただくという願いでお招きした文部科学省遠藤友麗視学官の記念講演は、教科としての図工・美術科を考える上で大変有意義なお話でした。

加えて、村瀬教授をコーディネーターとするパネルディスカッションも3人のパネラーにより「未来に向けて自分を『ひらく』子供の姿」をより具体的に語っていただけたことは、参加者にとって大変参考になりました。

ワークショップも芸術の森という自然の中で児童生徒の感性豊かな表現が展開され、参加者の共感をいただきました。

実践バザールも全国の実践が交流され、これからの授業作りに大いに役立つものとなりました。

大会の成功・全国の皆さんに感謝！ ●●●

今大会への参加は、860余名を数え、各会場校のPTAのお手伝いも含めると千名を越える方々のご協力を得ました。

道外からの参加は、東北、関東を中心に、南は沖縄・九州・四国を始め、京都・大阪など全国を網羅する参加で、全国大会としての盛り上がりがありました。

また、遠く台湾からの参加もあり国際的な交流も成された点で成果があったと思います。

特に、沖縄から参加された方々から、「来年は、沖縄でも授業を公開します。」との言葉をいただいたのは嬉しいことで、今後の全国大会での授業公開につながっていくことを期待したいと思います。

連盟の50年の活動の中で、21世紀の幕開けの年に全道の仲間が一つになり、これからの造形教育について語り合えたことに感謝し、関わってくださった方々へのお礼いたします。ありがとうございました。



全国大会をわたし達の財産に

感じて つくって ひらく 授業を普段の授業に取り入れて

第54回全国造形教育研究大会

北海道大会理論研究局長 高 橋 久美子

造形ボックスで繋いだ授業づくり

「第54回 全国造形教育研究大会」では、幼・小・中・高合わせて17の授業を公開致しました。5つの扉を、子どもをとらえる5つの視点として、校種の違う者達で頭を突き合わせ話し合っただけで授業づくりをしました。子どもの発達段階による学習目標や学習内容の違いがある中、私たちは目の前にいる子どもを正しくとらえること、そして子どもにどんな経験や力を身に付けてほしいのか、ということを経験づくりの共通のポイントとしました。一つの題材の中で、感じる（造形活動で大切にしたい「心」）、つくる（造形活動の「内容」）、ひらく（題材の目標や「美的価値」とかかわっての子どもの高まり）という3つのステップで行うことを明らかにしたのが、造形ボックスです。理論研究としては、非常に大まかなステップですが、共同研究として幼稚園から高校までを一貫して、そして北海道のどこでもこの造形ボックスに取り組むことにより、授業づくりを繋ぐことを試みました。

大会の成果と課題

この大会の成果は、多くの課題を抱えながらも校種間の壁をこえて、共同研究できたことです。一つの扉の中で「ひらいた姿とは何か」という焦点化された課題について意見を交換することを通して、それぞれの校種で見取る子どもの姿がかなり違い、それぞれの成長に合わせてその時に十分にしなければならないことを、できるようにすることが私たちの課題であるという共通の認識に立ちました。

それぞれの学習内容について小学校では、中学校でこんなことを学習するのだから、その基礎的な体験としてこの学習が必要なのだという共通の認識を、互いの授業交流を通して肌で感じました。指導要領によるそれぞれの校種別の指導目標が意味をもった瞬間でした。

幼稚園の園内に水の流れをつくり、園児たちがその中をかけめぐり体で水を感じている授業や小学校の総合的な学習の時間の中で、造形活動が実を結んでいる授業や、地域の美術館を開いた授業、高校生の一人一人が課題をもって芸術を追求している授業など多種多様な学習の展開が見られ、それらが造形ボックスで一つに繋がっていることが、全国的にも稀に見る実践であったと思います。

課題は、一つは子どもを見る視点としての扉が5つでよかったかということです。扉の分類分けにも批判のあるところですが、前述のとおり共同研究としてそれが例え1つでも2つでもよいですし、次元が変わってもよいのですが「扉」という視点が必要であると考えています。

もう一つは、ひらいた姿のおさえについて、本当にそれでいいのかという検証を全員で進める必要があるということです。大会では「子どものひらいた姿が見られたか」を合言葉にしました。この「ひらいた子どもの姿」と「造形ボックス」は大会から生まれた財産であると考えています。造形連盟のみなさんはもとより、大会に参加されたみなさんからの声を聞きながら確かめ、そして深めていきたいと考えています。

最後の一つは、幼・小・中・高一環としたカリキュラムをつくるということです。大阪教育大の岩崎由紀夫先生のお話では、共同研究の中からそれぞれの発達段階をおさえたカリキュラムは一つもつくられていないそうです。造形連盟では全国でもめずらしい共同研究が成り立っているのですから、長い時間をかけてでも取り組む価値があると考えています。

授業づくりの共同研究にはまだ足を一歩踏み入れたばかりです。これからの課題の方が数多くあり、皆様のご協力をいただいて研究を進めていきたいと願っています。

感じて つくって ひらく 授業を普段の授業に

大会から少し話が離れるのですが、今どちらの学校でも来年度から完全実施される新学習指導要領に基づいた教育課程の編成をされていることと思います。図工・美術の時間が減り、非常に厳しい現状です。しかし、どんな状況であっても、私たちが築き上げた「感じて つくって ひらく 授業」を実践していくべきではないかと思っています。なぜならば、今教育の現場に問われている「生きる力」を育める要素を造形教育はたくさんもっているからです。「感じて つくって ひらく」という学習の構造は総合的な学習での「課題の把握 課題の追究 発表」という学習の構造を支えるものであります。「感じて つくって ひらく」授業を普段のものにして、子どもに返してやろうではありませんか。

「エネルギーを ありがとう。」

秋田県 秋田市秋田北中学校
中川 恵

北海道の先生方のエネルギー、感性に感動しました。その力が、子ども達の学ぶ力、感じ取る力、創造する力、自己表現、自己実現していく力となっているのでしょう。

すばらしい授業、提案等ありがとうございました。

エネルギーをいただきました。そして、生徒さん達に拍手!! 来て よかった!!



全国から1008名の参加! 北海道大会へのメッセージ



「感じ、つくり、ひらくこと」 愛媛県 肱川町 肱川町立肱川中学校 大盛 通

私は免許外で美術を担当しており、これからの作品づくりの参考にと会に参加させていただきました。参加して、改めて強く感じたことは、今まで、私は、よい（ととのった）作品を仕上げるのが第一であると考えてきたのですが、それが間違いだったということです。自分らしさを表現する大切さ。そこから自分を見つめ、新しい自分を発見するという考えのもと、北海道の先生方が大変よく努力され、勉強していることがわかりました。

先にも述べたように私の授業では「感じ、つくり、ひらく」の中で、とにかく「つくる」ことが重視されていたように思います。これから、もっと先を見通した活動である「ひらく」ことに重点をおき、「自分らしさ」を発見させる活動を展開したいと感じています。北海道の先生方には、準備・実践などでお世話になりました。ありがとうございました。

「成果を確信！」

東京都 世田谷区駒留中学校
中村みどり

「ようこそ先輩」の授業を見せていただきました。生徒の喜びを見て成果を確信しました。授業の教材の切り口に勉強になることがたくさんありました。

「コミュニケーションと造形」の分科会では「コミュニケーションに関わること」「パソコン機器を使うこと」の以外にも総合的な学習についてもお話があり、とても参考になりました。学校にもどって生かしたいと思います。



「有意義だった3日間」

北見市 置戸中学校 松本真理子

これからの美術教育の方向性や問題点が少し見えたような気がしました。専門家の先生や現場で活躍されている方々の意見を聞くことができ大変勉強になりました。私にとって有意義な3日間となりました。大会の運営にたずさわった先生方および関係者の方々、どうもありがとうございました。

「うらやましい環境」

東京都 台東区台東小学校
飯村 幸子

幌南小学校授業での中学生の素直な感想や態度がとても印象的でした。

芸術の森でのパネルディスカッションは、それぞれの自分の言葉が表われていて、こちらも納得するものでした。ワークショップで木と石という素材のためか、大人の助太刀が不可欠で、子どもの思いを実現するための大人の支えが多すぎたのではと思いましたが、それでも広い場所で自然の木と石を使っての造形は気持ちのよいもので、環境のうらやましさを思ったものです。



「感動！」

室蘭市 室蘭東高等学校
水本 夕佳

何よりも、楽しそう。
さわってびっくり
感触から、イメージもわく。
むずかしい事も 必要ですが、
こういった感動も
忘れてはいけな
いと思いました。



「たくさんの方をいただいて、また頑張ります。」

東京都足立区 舎人篆小学校 石丸 敏子

大会運営ご苦労様でした。北海道の広さと同じく、三日間の会場も広範囲にいろいろ貸していただき、小さな旅気分に参加者が時間を見ながら動いて回り、その間のゆとりもあって良かったです。

教科性を追い求めて参加してきた“自分”もありましたが、参加してみて、「合科」、「全校での取り組み」、「人間育て」、という視点から、得ることが多く、職場にもどって、また、図工科を通して、頑張ってみようと思いました。

ワークショップは木と石というスケールの大きい材料で、チェーンソーやドリルなどを使って活動していて、子どもたちが、さながら原始の時代にタイムトラベルするような経験ができて、すごいと思いました。

第54回 全国造形教育全国大会in札幌

大会の風景

子供たちの生き生きとした姿が見られた授業、熱気のもった分科会。その他にも、大会にはこんなシーンが…

ホテルライフオーで開会式と全体会で、大会の幕開け



アイヌの伝統楽器の音色と民族音楽の演奏に聞き入った一時…



(決意を述べる芸術大会長)



文部科学省視学官の遠藤友麗氏による、ユーモア溢れる中にも説得力ある2時間に渡った記念講演会



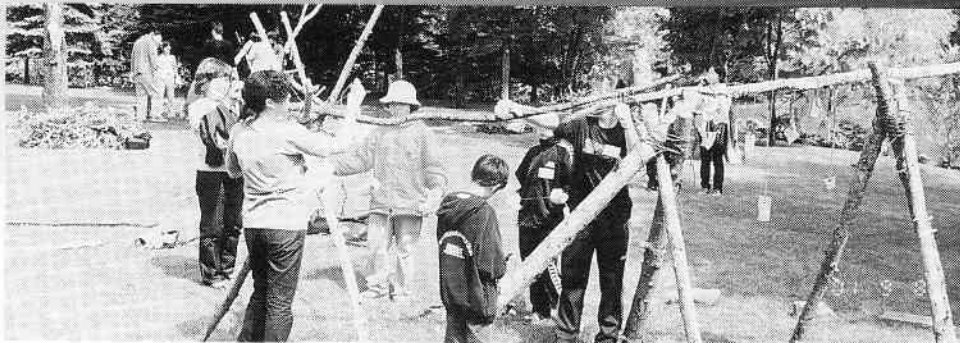
全国の仲間が集い、一つの鍋を囲みながら交流の輪が広がったビール園でのレセプション。
次期開催地、沖縄県の参加者からの沖縄民謡も飛び出し、終始なごやかな雰囲気にも包まれた。



全国から実践を持ち寄って開かれた「実践バザール」。台湾の生徒達の作品も展示され国際的な実践交流の場に。



3人のパネラーに会場の参加者も交え熱い討論が繰り広げられたパネルディスカッション。



爽やかな秋晴れの下、緑豊かな芸術の森を舞台に行われた「ワークショップ」。常磐小学校と常磐中学校の児童生徒と、連盟部員が力を合わせて取り組み、個性的な野外作品が並んだ。

第52回 全道造形教育研究大会 帯広・十勝大会へのご案内

帯広市立明和小学校 山口 雅子

研究テーマ

～ 豊かな感性を育む造形教育 ～

大会テーマ

広い大地に紡ぐ夢

平成 14 年 7 月 26 日(金)

豊かな感性

第52回の全道造形教育研究大会が、帯広・十勝の地で開かれます。前回、「豊かな感性を育む造形教育」を指針に定めて、～君はいま創造のとりこに～という大会テーマのもと、私たちの先輩がこの大会を開催してから、12年の月日が経過しました。そして今また再び、2002年、新教育課程完全実施の時に、変わらずに「豊かな感性を育む造形教育」を目標と定め、諸先輩、そして、子どもたちと同じ夢を紡げることに、大きな意義と喜びを感じています。

豊かな自然

不変なもの、それは造形の基礎・基本としての縦糸。その上で様々な素材・題材を横糸として、織りなされた、子どもたちの創造活動は、十勝平野のPATCHワークのように様々な色合いの織布と変化していきます。
透き通った空気。さわやかな青空の下。それが光り輝く様は、ともすれば私たちが忘れてしまったものを呼び起こしてくれるような気がします

夢を紡ぐ

「創るの大好き！描くの大好き！」の子どもたちをいっぱい育て、そこから、「自分大好き、友達大好き」へとつながっていく。一人一人の内に、私たちの帯広・十勝を自分のものとして大切にしようとするところが生まれるそのとき、私たちが、共に生きる喜びを学ぶための防風林となり、子どもたちを育んでいくことができれば・・・そんな夢を紡いでいるところです。

地区サークル紹介



●渡島美術教育研究会

「主体的に学ぶ研究会をめざして」

渡島美術教育研究会は、渡島管内16町村の小・中学校の会員（今年度は39名）で構成されています。会員の減少傾向と遠距離の関係で、簡単に集まって活動することの困難性を抱えながらも多くの協力を得て、次の活動を行っています。

①渡島教育研究集会での小・中学校の公開授業研とそのプレ研（11月）、②数年中断していましたが長い歴史を誇る「渡島児童生徒美術展」の開催（2月）、③函館市美研や教育大学美科の学生も参加して行われる「人物デッサン会」（9月）、④函館美術館や七飯町の「木村捷司記念室」の鑑賞会（5月）、⑤広報活動や⑥反省会、⑦勇退感謝会、さらに今年度は⑧各町村サークルの活動内容の交流にも力を入れています。

今後も会役員の若返りを図りながら子どもを中心に据えた実践研究を推進していきたいと考えています。

〈七飯町立大中山中学校 水口 司〉

●苫小牧市教育研究会造形部会

「造形部会の今は」

苫小牧市の、教育研究会の一つの部会として造形部会があります。本年度は、小学校56名、中学校12名、計68名の部会員がいます。

年間4回のロング（14時から）の研修日に実技研修、作品を持ち寄っての実践交流などを行っています。11月には研究大会があり、部会では小・中それぞれ研授業を行ない、研究討議が行われ、午後からは実技研修が予定されました。

地域の行事「紙フェスティバル」では、紙の立体作品展を行ったり、会場にダンボールで大きな造形作品を発表したりしています。また、市の文化祭行事の際にも、小・中美術展を行い、各校の実践交流の場としています。

全道大会を行う力があつた苫小牧の造形教育も、諸先輩たちが去り、今、部会員は少なくないのですが、大きな流れにはならないのが現状です。

〈苫小牧市立凌雲中学校 佐藤 公毅〉

●留萌地方美術教育研究会

「31年目のスタート」



留萌地方美術教育研究会（通称留美研＝るびけん）は、昨年第30回館内研究大会を行ないました。30年という長い「留美研」の歩みは、数多くの先輩の苦労の上にあるものと感謝しております。本年度の会員数は31名と過疎化で減少しておりますが、会員同士のつながりや協力体制が強くなり、世代交代で若い会員の割合が増えてきております。

さて、現在の本会の主な活動は年1回の研究大会と研修会の開催（隔年で授業公開）、管内児童生徒版画展の実施（それぞれ隔年）版画カレンダーと版画集の発刊などです。少人数で運営するのは大変ですが、管内造形教育活動のために、一層努力していかなければならないと痛感しています。

〈留萌市立緑丘小学校 斉藤 友昭〉

地区情報をお知らせ下さい。

第108号から、掲載してきましたシリーズ「地区サークル紹介」も次回で、全サークルを一巡します。以降は、また新しい形で地区情報を伝える企画を考えています。皆さんからの“旬な情報”をお待ちしています。各地区の活動の様子を写真や図などを交えてぜひお寄せください。

〒062-0053 札幌市豊平区月寒東3条10丁目1-1 札幌市立月寒東小学校 中居 正光 宛

あ と が き

皆さんのあたたかなご協力により、「第54回全国造形教育研究大会・北海道大会IN SAPPORO」は、1008名というたくさんの参加者を得て、大成功の内に無事に終わる事ができました。この大会は全道各地の造形教育連盟、地区サークル会員の皆さんのご協力なくして成功はありえませんでした。全道一丸となった力をあらためて強く感じた大会でした。皆さん本当にご苦勞様でした。

○広報部／小泉 誠、東 尚典、山室ゆかり、太田寿栄子、富田賢司、中山龍男、加藤正幸、土肥宏充、中居正光